

大学での授業

菊池 幸太郎

中国に来てから2か月が経ち、太原での生活もかなり慣れてきました。今回のレポートでは普段の授業について書きたいと思います。基本的に、月曜日から金曜日の午前中に授業があります。科目は听力（リスニング）、阅读（読み）、口语（会話）、精读（総合）です。また、午後を選択授業として二胡、HSK（中国語検定試験）、书法（書道）などの授業があります。そのほかに、自分は留学生のサッカーチームに所属しているため、その活動があります。今回は通常授業の3つについて紹介します。自分は初級班 B なので中国語を少しかじったことがある学生のクラスといった印象です。そのため学習内容は基礎です。またクラスはイギリスの学生が一番多くて、アメリカ、メキシコ、ウズベキスタン、コンゴ、ガーナの学生がいます。

听力 リスニングの授業では主にCDを使って教科書の問題を解くといった感じですが、教科書の問題の内容は声調（トーン）を答える問題、ピンインを答える問題とシンプルですが日本語にない音が中国語にはいくつかあるため難しいです。たまに中国で有名な映画やドキュメンタリーも見ます。また、授業ではもちろん、中国の学生と話す機会が多いので、そこでリスニングが上達されていると感じます。2か月くらいすると授業中の先生の話すことはほとんど理解できるようになります。

阅读 初級の読みの授業では偏旁（部首）を勉強しています。初めは、日本人にはあまり意味のある授業だと感じませんでした。実際に習ってみるとすごく楽しいです。日本の部首とすごく似ていて中国語と日本語の違いが面白いです。また面白いだけでなく、実用性があります。中国語には同じ音の文字が多数あります。そのため単語一文字だけ言ってもなかなか伝わりません。そこで2文字以上の単語を使って説明するか、現在習っている部首を使って説明します。発音がよくない自分が名前を紹介するとき、菊池を草字頭、三点水（草の頭→草冠、3つの点々、水→さんずい）などを使って説明します。部首の成

り立ちなども教えてくれるので、楽しいです。

口語 会話の授業では教科書をもとに練習しています。教科書の内容は比較的簡単なので、その内容をもとに自分たちでアレンジして人前で話す練習をしています。また、週替わりで中国での生活について数分間のスピーチを行います。話す練習だけでなくリスニングの練習にもなります。蚊が大変で寝れなかったり、食べ物が辛くて慣れないなど様々な物語を聞くことができます。会話もリスニング同様に、授業内だけでは正直伸びないと感じます。授業外での普段の会話が大事だと感じます。

今月紹介したい中国料理は「麻辣烫 ma la tang」です。痺れる、辛いスープです。写真のように自分で入れたい具材を選べます。その量によって値段が決まるという仕組みです。最後に店員さんに細麺か太麺か聞かれます。日本の担々麺に近い感じがします。店によってスープの味が違い、冬にはピリ辛のスープが体を温めてくれます。値段も安く10元程度です。



野菜不足になりがちなのでここでたくさん食べることができます。